



## 授業研究

日本は日常的に行われている授業研究。モンゴルに来てその大切さをひしひしと感じている。モンゴルでは、子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクトが行われており、生徒の活動を授業に取り入れ、考える力を養う子ども中心指導法が求められている。

先日、私の学校の小学校で授業研究及び授業検討会が行われた。

今回は5年生の先生たちが授業を作り、代表の先生が行い、校長やマネージャー、他学年の教師が参観する形で行われた。授業の内容は「人と環境、水について」、かなり高度な内容であった。生徒が班ごとに作ってきた資料と教師が作ったスライドやビデオをもとに授業が進められた。

授業を参観し、先生たちが一生懸命準備したことは非常によくわかった。だから、ここで授業についてあまり批評すべきではないと思っている。

私がここで書きたいのは、生徒の考えをどう引き出すかについてである。授業を作るにあたり、単元の内容を確認し、教えるべきこと、教材の選定などを行う（授業を作るにあたりファクターはこれだけではない）。

しかし、いかに良い教材を使っても生徒の実態（経験やできることなど）にあっていなければ授業の中で生徒の活動や考え（意見）はいきてこない。生徒の目線に立ち、授業の中で教師が投げかけた発問に対して、生徒が何を考えるかを想定した発問を考えて授業を組み立てなければならない。実験やグループ活動に関しても、実験をやることで何を感じて、何を学び考えるのか。グループで何を話し合い、どのように意見をたたかわせて、どう結論づけるのか。

教師の発問力と何より生徒の状況をしっかりと把握した上で、指導法を考えて授業をつくるのが大切である。モンゴルでは、教師が教える、指導するという想いが強い傾向にあり、結論を出させることに集約して、生徒の自由な発想が出しづらいように思える。

教える側の考えだけでなく、学ぶ側の気持ちに立てるかが今後の授業改善の課題になってくるのではないかと感じた。



## 南ゴビのダランザドガド市で授業見学会、セミナー開催

3月9日、10日にボランティアの中の教育関係の隊員が集まり、ダランザドガド市の教育局と協力して子ども中心の指導法をテーマとして授業見学会と授業研究や教材の作り方についてセミナーを開催した。授業見学会は、現地の小学校で生徒相手に公開授業を行い、市内4校、村の学校1校の5校の先生方に見てもらった。

授業見学会を行うにあたり、7日に事前授業をダランザドガド市の小学校で行った。その際、指導案通りに行ったが、時間を10分以上オーバーしてしまった。問題点は言葉が生徒にうまく伝わらない、そのため授業の流れが途切れてしまうことであった。初めて会った児童に対し、完璧ではないモンゴル語では通じないことを痛感した。授業後の反省会で、モンゴルの先生たちは指導案については変える必要はないが、板書スピードや話すスペースを課題に挙げた。（言うまでもないが8日にかなりシミュレーションと準備を再度しました）

授業見学会当日は、反省と担任の先生の協力があつて計画通りに授業を進めることができた。また、授業見学の目的として提示した内容も先生方に理解を得ることができた。

授業後の教育局員の講評で、教材や指導法だけでなく、事前授業で失敗したことやそれを修正して今日の授業を行ったことについて話をしてくれた。日本人がどのような姿勢で1つの授業を準備してきたのか、試行錯誤の過程についてもモンゴルの先生に伝えてくれた。また、私の表情や仕草、生徒との距離感などについても話の中でふれていた。（モンゴルでは先生と生徒に距離感がある）

セミナーをやるに当たり、授業のテクニックや教材の質も大切であるが、日本人教師としての授業に向かう姿勢を感じてもらえたことがとても嬉しかった。

モンゴルに来て9ヶ月、いろいろな理屈や教材などの紹介も大切であるが、何よりも仕事に対する姿勢や授業や生徒に対する想いのようなものを伝えていくことが大切なことであることを感じた。

残りあと1年・・・



### 最近の活動について

実験や生徒の活動を取り入れた授業展開が少しずつではあるができてきている。しかし、教える内容が多いことで毎時間できるわけではない。私の活動は、兔の様にぴよんぴよん速くは進まないが、亀で良いので少しずつでも前進していけるように頑張りたい。



### 今後の展望として

公開授業を増やしていき、多くの先生に子ども中心の授業について感じてもらえればと思っている。